

学科名	生物環境化学科						
科目名	アカデミック有機化学II						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース) 選択科目(食品生物資源コース) 選択必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	藤井政幸						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルボニル化合物の構造と反応性を理解する。</li> <li>・カルボニル化合物への求核付加反応を理解する。</li> <li>・カルボン酸の特性と反応性を理解する。</li> <li>・複素環化合物の構造、性質、反応性を理解する。</li> </ul>						
日程と内容	9月15日	第1回: 導入講義: 授業の進め方と概要の説明、成績評価法、有機化学の位置づけと他の科目との関連について説明、有機化学の基礎					
	10月6日	第2回: カルボニル化合物の構造と性質概要					
	10月6日	第3回: アルデヒド、ケトンの合成法					
	10月13日	第4回: アルデヒドケトンの反応...ケトエノール互変異性					
	10月20日	第5回: アルデヒドケトンの反応...求核付加反応					
	10月27日	第6回: アセタール化反応とエステル化反応					
	11月10日	第7回: 第1回臨時テスト					
	11月12日	第8回: カルボン酸とその誘導体...名称と性質					
	11月24日	第9回: カルボン酸の酸性度					
	11月24日	第10回: カルボン酸の合成					
	12月1日	第11回: カルボン酸の反応					
	12月8日	第12回: 第2回臨時テスト					
	12月15日	第13回: 複素環化合物の構造と命名法					
	12月22日	第14回: 複素環化合物の性質					
	1月12日	第15回: 第3回臨時テスト					
	1月19日	第16回: 定期試験					
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習	20%			100%		
授業到達目標の達成度	選択科目である本科目の履修者は単に単位がほしいという学生が少なくなり、有機化学に関心の高い学生が中心となったため、本来のレベルでの講義がほぼ実現し、教科書の内容の説明、講義中に学生に解答させる演習問題はほぼ達成された。						
反省点	講義内容を十分に理解している学生とほとんど理解できていない学生とに2分されたので、両者に対する対応を工夫すべきと思われる。演習を多く取り入れている。黒板に書かれた学生の解答を赤で修正しながら改札するが、隙間に記入するkとなり、字が小さくなる傾向があったようなので、見やすいように工夫したい。						
来年度の計画	学生の習熟度を考慮しながら講義の程度を決めているが、多くの学生はまだ基礎力が足りないので基礎からの復習を兼ねながらさらに発展的な内容を理解できるように演習問題等を通して基礎力向上を徹底したい。また、受講者のレベルを考慮しながら、大学院進学を念頭に置いたレベルに対応できる講義内容としたい。復習のための課題が中心であったが、予習用の課題も作成し、開会の授業の初めに提出するようにしたい。一部、毎回遅刻する学生がいたので正したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は8.3と高評価であったので概ね学生の理解度と講義内容は一致していたと考えられる。説明はわかりやすかったとの解答が多かった。						
履修登録者数	23名	定期試験 受験者数	19名	合格者数	19名	合格率	100%